

1. 件名：泊発電所3号炉の新規制基準適合性審査に関する面談について

2. 日時：令和元年11月28日(木)16時30分～17時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門

内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、田上上席安全審査官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官

北海道電力株式会社 榎執行役員 他6名

5. 要旨

(1) 北海道電力株式会社から、泊発電所3号炉の新規制基準適合性審査のうち、本年11月15日に実施したF-1断層の活動性評価に関する現地調査における石渡委員及び原子力規制庁からの指摘事項について、その趣旨の確認があった。

(2) 原子力規制庁から、各指摘事項の内容に係る認識を相互で確認した後、現地調査でも指摘したとおり、上載地層の年代が12～13万年前よりも古いとする北海道電力株式会社の主張に対して、以下の内容等についてデータの整理をして説明するよう再度伝え、今後資料が準備でき次第説明するよう求めた。

- ・追加調査における各地層の認定について、開削調査箇所（南側）において上載地層と認定している斜面堆積物と当該開削箇所と連続するはざとり露頭において確認される斜面堆積物との性状の比較を行うこと等により、12～13万年以前に堆積したとすること（上載地層として用いること）。

- ・露頭スケッチ等の観察結果が示されていない範囲も含めたF-1断層及び小断層の分布や変位・変形の影響範囲。

- ・各地層の堆積時期と断層の最終活動時期の関係について、各調査箇所において観察された各地層の性状、堆積順序及び各調査箇所間の地層対比を行ったうえで、断層の変位・変形が上載地層へ達する標高に各調査地点間で差異があることについての考察。

(3) 北海道電力株式会社から、F-1断層の活動性評価に係る現地調査での指摘及び基準津波策定のうち日本海東縁部の津波評価に係る事業者の準備状況について、以下のとおり説明があった。

- ・ F-1断層の活動性評価に係る現地調査での指摘に対し、本年12月中旬までに現場サンプリング作業等を実施し、その評価結果を令和2年2月下旬にヒアリングで提示できるように準備を進める。
- ・ 日本海東縁部に想定される津波評価について、提出資料を用いた説明があり、数値シミュレーションの分析・評価結果を令和2年4月中旬にヒアリングで提示できるように準備を進める。

(4) 原子力規制庁から、F-1断層の活動性評価に係る工程については、具体的な作業内容を整理して改めて説明するよう求めた。

#### 6. 提出資料

- ・ 令和元年11月15日現地調査における指摘事項
- ・ 泊発電所 基準津波策定のうち日本海東縁部の津波評価について